【事例報告】「北九州の音楽文化を支える会」アコルデの活動について

アコルデ　事務局長　　奥村　和子氏

　アコルデの清原代表からお話をしていただきましたが、私は、北九州国際音楽祭でのボランティアについてと、アコルデの活動と音楽ボランティアについてお話をいたします。お手元の資料ですが、２枚つづりの「アコルデの活動について」と、「湧き上がる音楽祭 in 北九州」の報告書があります。それから来年度の「湧き上がる音楽祭」の出演者募集チラシ、アコルデの活動報告として２０１２年、２０１３年、２０１４年があります。以上が今からお話する資料になっています。今日はアコルデから岩崎さん、谷口さんの４人で参りました。

それでは資料の「北九州市での音楽ボランティアの始まり」からお話しいたします。

北九州国際音楽祭は、ずっとさかのぼって１９８８年に第一回が開催されました。その一年前に「ボランティアしませんか」という募集があり、私事ですが英語の講師でしたので“英語を使える、音楽が大好き”ということで応募しました。その時が北九州市で初めて音楽ボランティアの団体が出来たと思っています。その当時１０年間程、北欧の音楽祭におけるボランティアスタイルを学び、30 人程の運営委員での活動でした。

その時の音楽ボランティアの活動内容ですが、コンサートの際に配布する前日のコンサート情報誌の作成。当時、演奏家が一週間から１０日程滞在する滞在型の音楽祭でしたので、殆んどヨーロッパの方々でしたが、そのケアをボランティアも行っていました。また、観光される方のための英語地図の作成や、さらに英語を話す人が必要だろうということで、北九州市内の各区に英会話教室が開かれました。この教室に１００人程の市民が参加し、チケット販売から、音楽ボランティアですのでコンサート会場での仕事はもとより、楽屋では、海外の演奏家の「地元の人に触れたい」という希望もあって、英語が出来る方を含めて、楽屋対応もいたしました。

次に「おもてなし」と書いていますが、地元市民と演奏家やその家族、そして観光目的の来訪者など、北欧の人たちと国際交流がありました。習字教室、着つけ教室、お茶会、市内観光などをしてその交流を楽しみながら活動しました。その他、音楽祭のグッズを作成して販売。例えば T シャツ・トレーナに音楽祭のロゴを入れて会場で販売しました。またＣＤやグッズを仕入れて販売もしました。かなりの収益があったようです。

そういったボランティア活動もあった経緯の中で、今日まで音楽祭が続き、第２７回目の北九州国際音楽祭が先日終わりました。

その後１０年程前に、北九州国際音楽祭に市民も企画参加しようという動きがあり、「北九州国際音楽祭市民企画委員会」が結成されました。企画から市民が参加することは、音楽祭の中では、当時稀なことで全国的にもなかったようです。

北九州国際音楽祭市民企画委員会は、交流事業として「マラソンコンサート」「街かどコンサート」を開催しています。

「マラソンコンサート」では、響ホールを１日市民に開放するということで、１５０人から２００人の方々が参加して、１日中楽器も様々でマラソンコンサートが開催されています。また「街かどコンサート」は、音楽祭を北九州に広めようという目的で、街かどでコンサートを開催しています。毎年約１００人から１５０人の参加があります。

次に「湧き上がる音楽祭」と「アコルデ」の発足についてお話します。

５年ほど前に、若い演奏家の後押しをしようという清原代表のお考えで、地元で活動す

る演奏家や音楽を専門的に学ぶ学生を対象に“湧き上がるように音楽を”という「湧き上がる音楽祭 in 北九州」が育成事業として始まりました。
これには次の３つの演奏会で構成されています。
オーケストラの指揮者の育成、またオーケストラをバックにソロ演奏を行う演奏家の育成、オーケストラ団員育成のコンチェルト演奏会。
様々な室内楽の室内楽演奏会。斬新な企画を求める独創企画演奏会の３つがあります。
今年、市民企画委員会は１０年を迎え、湧き上がる音楽祭は５年を迎えました。
　その市民企画委員会の広報ボランティアのセクションで、当初よりボランティアを募り、主に会場のボランティアや広報活動を続けていました。会場の受付・もぎり、ドアの開閉、会場案内の活動です。１０年近くを経て、清原代表より「独立したボランティアの会を作りましょう」というお話があり、アコルデ　＜北九州の音楽文化を支える会＞が結成されました。
アコルデはフランス語の音楽用語で調和という意味です。運営委員全員一致で即決めました。サブタイトルは＜北九州の音楽文化を支える会＞です。メンバーは現在１６人います。月に１回の例会で運営しています。また、北九州大学の地域創生教育学部にもお願いして、学生さんにも参加していただいています。
　それでは資料の「現在までのアコルデの活動」です。
　アコルデは組織としてはゼロからの出発でしたので、「アコルデの存在」「音楽ボランティアの存在」を知っていただくために、発会式、１周年、２周年と年に １ 回のアコルデコンサートとともに活動を進めてきました。コンサートを開催し、出来るだけ知っていただきたい、そして一人でも多くの市民の方にボランティアに参加して貰いたい、という趣旨もありセミナーも行いました。アコルデの発足と同時に、北九州市教育委員会の市民講座支援事業「ホット学びたい市民講座」に応募・参加して、４回のセミナーを行いました。
　目的の １ つに、ボランティアに応募のメンバーの「音楽ボランティアって何をするのだろう」という方がほとんどでしたので、とにかく学ぼう・・・、　と４回のセミナーを開催、一生懸命皆さんで学びました。
　第１回のセミナーは、「あなたの想いが街をつなぐ　学ぼう！市民参加の音楽ボランティア」という素敵なタイトル、これは若手メンバーが考えてくれたタイトルです。まず地元の音楽事情とボランティア活動について清原代表にお話していただきました。それから隣県の鳥栖市でラ・フォル・ジェルネ鳥栖が始まり、取材に行き、事務局の鳥栖市文化振興課の方にセミナーをお願いして会場に来て頂き、ラ・フォル・ジェルネ鳥栖の事業を話していただきました。
　ラ・フォル・ジェルネ鳥栖では、ボランティア募集を全国に広げて、境界線無しで行われ、全国からボランティアが参加したということです。
　次に飯塚新人音楽コンクールがあります。音楽家の登竜門とされていて第３１回を迎えたところだったのですが、取材させていただきました。ここでは「おもてなしをとても大事にしている」ということでした。
　コンクールに出場される緊張した演奏家に、静かな気配りのボランティアがなされており、それが非常にいい反響を呼び、全国から応募者が多数参加されるようになった１つの理由とされていて、現在も登竜門のコンクールとして続いている事業です。ボランティアの皆さんは手弁当で参加されているということでした。
　第１回セミナーの二部として、昨年このフォーラムに参加された古賀弥生先生（NPO ア

ートサポートふくおか）に「文化のまちづくりとボランティアについて」の講演をしていただき、「まちでのボランティアの役割」を学びました。

第２回セミナーは「ワークショップ」

どういった気持ちで音楽ボランティアをするかという心構え、心の問題を古賀桃子先生にしていただきました。

第３回セミナーは「舞台は生きている」

舞台をテーマにしましたのは、２０１３年２月に北九州市制５０周年事業、北九州シティオペラ主催、オペラ「アイーダ」公演という大きな会場での活動がありました。まだ結成間もないアコルデでしたが、思い切ってお引き受けし、２日間の公演を８５人のボランティアの皆さんで一生懸命対応しました。そこで大きな失敗をしてしまいました。それは通常のクラシックコンサートと異なり、オペラ公演はカーテンコールが何回も何回もあることです。１幕終了の際に、少し早めにドアを開けてホール内に光が入ってしまい、お叱りを受けたことでした。

そこで第３回セミナーは舞台のことを学ぼうと、多くの舞台の仕事をされてこられた北九州ソレイユホール館長古川清氏に来ていただき、舞台のことを学びました。

第４回セミナーは、とびうめの会の石川さんに来ていただいて、コンサート会場の基本活動「コンサートの表と裏」という裏方のホールの活動、表のホールの活動を学ばせていただきました。この基本活動は、まだまだ学ばなければいけないと思います。

４回のセミナーで多くを学びながら、アコルデは２０１２年６月発会から現在まで２年半、およそ７０公演を、述べ５００人程の多くのボランティアの皆さんで活動してきました。資料の２０１２年、２０１３年、２０１４年の活動報告にあります。

大学生、高校生の参加もあり、多くの方と触れ合い交流することができました。時には未熟な点もありますが、ボランティア活動をさせていただいています。

最後になりますが、これからのアコルデの活動の展望として、清原代表が先ほどお話されましたように、ほんとに愉しみながら学びながら、皆で運営委員一同仲良くやっていけたらと思っております。

私事ですが、音楽ボランティアの活動はじめて２８年になりますが、“時代の流れ”を感じます。そして時代の流れに沿ったボランティアのあり方があるのではと思います。時代遅れにならないように、その時代に合った活動を続けて、繋げていけたらと思っています。

これからも、主催者がどんな気持ちでコンサートをされているのか、又、演奏家の気持ち意気込みなどを、アコルデの皆さんで話し合いながら、クラシック音楽を中心とした音楽ボランティア活動をさせていただければ、と思っています。

音楽ボランティア活動によって、人と人との繋がりができ、交流することによってボランティア自身の学びになって行く、振り返えると、その一つ一つがその人の宝になっているような活動を続けていけたら、と思います。アコルデの中でもよく話していますが、そういうものを若い方々に「音楽ボランティアというものがありますよ」と伝え、繋げていけたらと、今ささやかに願っています。

拙いお話でしたが、ありがとうございました。